SLC NEWS



Autumn Term 2020

DECEMBER 2020 VOL. 2









2020 夏!SL 写真・動画コンテスト SL Photo & Video Contest in Summer 2020

今年の夏は、コロナ禍により実家や地元で過ごす方が多いのではないかと予想し、ICU の学生、教職員を対象に「地域コミュニティの魅力」をテーマにした写真や動画を募集しました。その結果、農家さんとの交流と地元農業の PR 写真(写真上、優秀賞)、昔から馴染みのある地元の様子を新旧混在という視点で見る動画、炎天下一生懸命に働く地域市民のワンシーンなど、個性溢れる作品を皆さんと共有することができました。優秀賞受賞者には、JA 東京むさし様より「三鷹の野菜・果物詰合せ」をお送りしました。



This year while various activities are restricted by the COVID-19 pandemic, we assumed that many people would spend their summer at parents' home or local area and decided



秋学期のオンライン授業とサービス活動

Online Classes and Remote Service Activities in the Autumn Term

秋学期の「GE:サービス・ラーニング」は、英語開講で、国内外の学生 24 名が履修。初の「対面とオンラインのハイブリッド型授業」と、教育や途上国支援、環境関連 NPO、ICU 学内機関等で、ICU 生の語学力や IT スキルを活用し、時間や場所に捉われない遠隔サービス活動を行いました。

"GE: Service-Learning" in Autumn Term was offered in English to 24 students from Japan and abroad. It was the first "hybrid face-to-face and online" class, and students used their language and IT skills to engage in distance service activities, regardless of time and place, in education, support for developing countries, environmental NPOs, and on-campus organizations at ICU.



秋・冬学期期間中のサービス活動

Service Activities during Autumn and Winter Terms

長崎大学・長崎平和推進協会との連携による平和推進活動、ICU 卒業生が廃棄物ゼロを目指して活動する徳島県上勝町『ゼロウェイストセンター』等を活動先とし、学期期間中の遠隔実習と、秋休み中の二週間を実地で行うハイブリッド型実習を実施。また、ミドルベリー大学学生発案の『日系アメリカ人収容所研究プロジェクト』では、完全オンラインで、学生同士が協力し合いながら調査に取組んでいます。

In collaboration with Nagasaki University and the Nagasaki Foundation for the Promotion of Peace, and "Zero Waste Center" in Kamikatsu Town, Tokushima, where ICU alumni aim to achieve zero waste, students engaged in remote activities during the term and face-to-face activities in the field for two weeks of autumn recess. The Middlebury College student-initiated "Japanese-American Internment Project" is a completely online research project in which students collaborate with each other.



秋田県の小さな町「五城目町」で起業家、移住者等とまちづくり

Serving Together with Entrepreneurs & Immigrants for Gojomemachi, Akita

人口 9,000 名ほどの小さな町で、移住者、起業家、地元企業など様々なメンバーで構成される「ドチャベンジャーズ」。2021 年春期休暇より、ICU 生はドチャベンジャーズの方々と、人口減少、高齢化、担い手不足、移住・定住など様々な課題解決に取り組むサービス活動に従事します。

In small town with a population of 9,000 people, "Dochavengers" is made up of a variety of members including immigrants, entrepreneurs and local businesses. From spring recess in 2021, ICU students will work with Dochavengers in service activities to solve problems such as depopulation, aging, lack of workers, migration and settlement.



needs of the local community. 地域コミュニティ支援の「コモン・グッド基金学生プロジェクト」

2021 年夏、ガーナで「持続可能な開発目標(SDGs)」を目指す Sustainable Development G<u>oals (SDGs) in Ghana in summer 2021</u>

Common Good Grant Project for Local Communities

日本国際基督教大学財団 (JICUF) は、SLC と連携し、地域コミュニティ支援のための「コモン・グッド基金学生プロジェクト」を開始します。ICU 生が地域の非営利団体を調査し、各団体から助成金の申請を受付。JICUF より 100 万円の資金を配分し、地域コミュニティの活性化を目指します。

2021年度夏期休暇より、ガーナの「ホー工科大学」と

連携し、新たな SL プログラムを実施します。学生は

ガーナの地域コミュニティの人々と共に、農業・漁業

ビジネスや教育問題等、さまざまな地域特有の問題に

ついて考え、現地のニーズに応えるサービス活動に取

Starting in the summer of 2021, a new service-

learning program will be implemented in partnership

with the Ho Technical University in Ghana. Students

will work together with members of the local

community in Ghana for various local issues such as agriculture, fisheries, and education to meet the

組みます。

Japan International Christian University Foundation (JICUF), in partnership with SLC, will implement the Common Good Grant (CGG) Project to support the local community around ICU. ICU students will research NPOs near ICU and solicit grant applications from them. JICUF will distribute $\pm 1,000,000$ to help revitalize the local community.

Common Good Grant project sponsored by IICUF





コモン・グッド基金学生プロジェクト

2021年度より、教員主導サービス・ラーニング・コース開始

Faculty-led Service-Learning Courses Begin in 2021

本コースでは、ICUの教員が自身の専門分野に関連したサービス活動をアレンジし、学生は、教員による専門的な指導を受けながら、SLをより専攻分野に特化させて学びます。2021年度は、岡村教授、布柴教授による「子ども科学教室のプラニングと実施」と青木教授による「戦争遺跡消失時代における平和教育の体験的学習プログラム開発」を開講します。

ICU faculty will arrange service activities related to their own disciplines. Students will learn SL in a more discipline-specific manner while receiving expert guidance from faculty. In 2021, we will offer "Planning and Implementation of Children's Science Classes" by Prof Okamura & Prof Nunoshiba, and "Development of an Experiential Learning Program for Peace Education in the Age of Lost War Remains" by Prof Aoki.



国際パートナー機関の活動紹介『コロナ禍のインドでのサービス活動』 from ユニオン・クリスチャン大学(インド)

Introducing our Overseas Partner Institution "ARISE AND SHINE" from Union Christian College, India



ジャスティン・ ナヤガム教授

Dr. Justin R. Nayagam

ユニオン・クリスチャン大 学 (インド) 植物学准教授

Assistant Professor, Department of Botany

Union Christian College, Aluva, India

UCCについて

インドの南部ケララ州にあるキリスト教系の大学。文系・理系様々な学部がある。複数の宗教が混在する地域にあり、ヒンドゥー教が根強い他のインドの都市とは違う雰囲気。ICUとは2005年から学生交換を行っている。

About UCC

A Christian university in Kerala, south of India, with various faculties of arts and sciences. Located in a multi-religious area, it has different atmosphere with other cities where Hindu is the dominant religion. UCC and ICU have been exchanging students since 2005.

UCC' s website:



新型コロナウィルス感染症の大流行は、私たちの大学での学習や日常生活を圧迫する新たな状況へと導きました。ソーシャル・ディスタンス、マスク着用、人々の接触を避ける現場でのサービス活動は現実的ではく、今年度はグループで活動するプログラムは中止となりました。私たちのモットーは「自分の専門知識を将来のサービス・ラーニングに生かす」こと。その一環として、SL 学生と教員は地元地域でリーダーシップを発揮して、サービス活動をすることとなりました。2019 年度 JSSL (※)参加学生は、自ら率先して取り組みました。メリンさんは、紙袋作りや粘土を加工した記念品作り、年長者との時間を過ごすことで SL を実践しました。シリアックさんは、野良動物を救出し、高齢者に果物や有機野菜を提供したほか、魚の稚魚を育てて近所の人に配るなどの取り組みを行いました。 言語学科の学生ローズ・ピンキーさんは、社会的・経済的に恵まれない人々のためのフェイス・マスクの作成に携わっています。ピンキーさんはまた、貧しい人々への食料の提供や、彼らのやる気を起こさせるような思いを込めたショート・ビデオを準備しています。

UCC が大雨に見舞われた 2019 年、キャンパス内の生物多様性を研究するための案が策定されました。この時、SL プログラムに参加していた ICU 生が日本の植物に関する表を作成・比較してくれました。植物学科の SL 教員は、学生たちに生物多様性保全の重要性を再認識させることができました。また、植物学科の研究者は、外来雑草からの根付け添加剤の開発に成功し、地元の農家に供給して有機農業を推進しました。その他、部族の生徒が多い Mullaringadu 校の生徒にフェイス・マスクを提供しました。このような事例に、今後の SL パートナー機関の可能性を感じています。

※夏休みの約一か月間、アメリカ、アジアの学生、ICU 生が共に三鷹や地方でサービス活動を行うプログラム。



メリンさんの粘土加工グッズ Mementos made of clay by Ms. Merin



シリアックさんの動物救出、魚飼育、果物配布 Rescuing animals, growing fish and fruit distribution by Mr. Cyriac



ローズ・ピンキーさんのマスク作成と食料提供 Making facemasks and feeding the needy by Ms. Rose Pinky

Covid-19 pandemic has led us through a new situation that pressurizes learning processes and day-to-day life. Onsite Service-Learning by social distancing, masked and without contact was not practical, hence no group programs were conducted during this academic year. 'Use your expertise for future Service-Learning' was the motto and as a part of it, the SL students and faculty were directed to take leadership to serve locally. JSSL (*) 2019 participants took initiatives by themselves. Ms. Merin practiced SL by making paper bags, mementos from processed clay and spending time with elders in addition to peer teaching. Mr. Cyriac rescued stray animals and supplied fruits and organic vegetables to elderly people in addition to his initiative to grow and distribute juvenile fish to neighbors. Ms. Rose Pinky a student from the language department is involved in preparing facemasks for the socially and economically backward sectors of the society. Ms Pinky is also preparing short videos with motivational thoughts along with feeding the needy.

In 2019, when UCC was hit with heavy rains, an alternate plan was formulated for the study of biodiversity in the campus. It was very exciting

for the ICU students that they prepared a chart and compared the plants in Japan. The SL faculty in the Department of Botany was able to reiterate the importance of conservation among the students. The research scholars of the department were successful in developing rooting additives from alien weed species, which will be supplied to local farmers to promote organic farming. Supplying facemask to the students of Mullaringadu school, which has a majority of tribal students was also done. This is a potential SL partner institute for future SL.

* Students from US, Asia and ICU students serve together in Mitaka and rural areas for about a month during summer recess.

SL 卒業生の声『フィリピンの盲学校でのサービス活動から 10 年後の出会いに繋がった、一瞬の出会い(前編)』

SL Alumni's Voice "A Brief Encounter from Service Activities in a School for the Blind in the Philippines that Led to an Encounter after 10 years" - Part I



SL Alumni 石田由香理 Yukari Ishida (ID13)

#シリマン大学 #フィリピン #2010 年夏 #Silliman University #Philippines #Summer 2010

一人でも多くの人に私を見ても らうこと、障がい者の可能性を 正しく理解してもらうこと、そ れが私にとって1番のサービス であり、私だからこそどこでも できるサービス活動だと思って いました。

I thought that the best service I could do was to let people see me, and to help them understand the possibilities of people with disabilities correctly. 2010 年 7 月に、フィリピンのデュマゲッティ市にあるシリマン大学で SL プログラムに参加しました。1 週目は性的虐待から保護された女の子たちが暮らす家を訪れ、2 週目はブルミントンという村にホームステイ、3 週目は少年院で子どもたちと交流、4 週目は公立小学校の特別支援学級でサービス活動をしました。この 4 週目の盲学校での体験がサービス活動のハイライトでした。このクラスには 5 歳から 14 歳までの 10 人ほどの子どもに先生が一人。ただ生徒を預かっているだけで授業も行われず、放置状態でした。私は 1 週間という限られた期間中に少しでも何かを変えたいと思い、一つでも多くの教材をこの学校に残して帰ることに決めました。

まずは毛糸を紙に張り付けて、迷路を作りました。これは点字を覚える前の段階にある子が、線を確実に指で辿る練習をするための教材で、将来グラフや図を触って理解したり、日常生活で物を触って確認する際の手の使い方の基本となります。14歳の少年にこの迷路を渡すと、彼は喜んでその不思議な手触りを楽しんでいるようでした。また、フェルトのコインを使って算数を教えました。左右の手にコインを渡し、"Count"と伝えると、彼は"One two three four five"と声に出して数えてくれました。このプロセスを、数を変えて何度も繰り返しました。今まで授業中、放置されぎみだった彼は、誰かがつきっきりで何か新しいものを提供してくれることが気に入ったらしく、飽きる様子も無く私に付き合ってくれました。これを毎日数十分繰り返し、最終的には一ケタの足し算引き算をマスターしていました。

フィリピンの視覚障がい者教育における問題点は、私の考えでは、視覚障がい児を持つ親、本人、盲学校の先生、福祉制度それぞれに問題があると思います。まず親の問題として、一般の子どもたちでも貧しさがゆえに捨てられたり、売春産業に売られたりしている世の中なので、障がいを持って生まれた時点で、捨てられてしまうという現状。障がい児本人に関しては、ロールモデルがいないため、目標を持ちにくく、新しいことを学ぶ気が無いという問題。福祉制度に関しては、障がい児手当等の制度が無いのはもちろんのこと、点字を書くための紙の輸入に係るコストがかかること。これらの数えきれない問題が重なりあい、泥沼のような悪循環が発生しています。私は、この悪循環にどこから手を付ければいいのか考えた末、未来の先生方に期待することにしました。サービス活動終盤に、シリマン大学のSpecial Education のクラスを見学し、25 人ほどの生徒の前で話をする機会をいただきました。まず日本から家族の付き添いも無しにやってきたという視覚障がい者が前に出た時点で皆興味津々です。私が大学に通っていて、英語という外国語を身につけていることは、彼らにとっては初めて見る信じられない光景なのです。私は、盲学校の感想やそこで私が考えた指導法などを説明し、正しい方法で指導すれば 視障がい者でも健常者と同じ可能性があるのだということを、将来障がい児学校の先生になるであろう彼らに伝えました。

SL 活動中、私はとくに必要無い場合でもあえて白杖を見せながら外出し、一人でも多くの人に私を見てもらうこと、障がい者の可能性を正しく理解してもらうこと、それが私にとって 1 番のサービスであり、私だからこそどこでもできるサービス活動だと思っていました。私にとってのサービスとラーニングは、どちらも活動を通してでは無く、人との関わりを通してなりたっていました。私がここ日本でできること、それはフィリピンの現状を知らせることももちろんですが、「障がい者にだってボランティアができる」というこの発見を、世の中に広げて行くことだと思っています。(2010 年執筆)…後編は次号にて。



SL 後のフィリピン留学時のホストファミリーと With host family during study abroad in the Philippines after SL

In July 2010, I participated in the SL program at Silliman University in Dumaguetti, Philippines. We visited a home for girls sheltered from sexual abuse (Week 1), stayed in a village called Bloomington (Week 2), interacted with children in a juvenile detention center (Week 3), and engaged in service activities for a special needs class in a public elementary school (Week 4). The experience of school for the blind in the fourth week was the highlight of my service-learning. In this class, there were one teacher and about 10 children between the ages of 5 and 14, and the school was just having students and no classes were held. I began to feel that I want to make some changes within a week that I had, so I decided to create teaching materials as many as I could for the school.

First, I made a maze by sticking yarn to paper. This is a teaching tool for blind children who do not know Braille, to practice reliably following lines with their fingers, and this will be the basis for future use of their hands to understand graphs and diagrams and to check objects in everyday life by touching them. When I handed the maze to a 14-year-old boy, he seemed to enjoy the tactile sensation of the maze. I also taught him math using felt coins. I handed him

coins in each hand and told him "Count" and he counted saying "One two three four five". I repeated this process over and over again, changing the numbers. Because he had been a bit neglectful in the classroom, he looked happy with someone staying with him and offering something new. He continued this practice for several minutes every day and eventually mastered single-digit addition and subtraction.

In my opinion, problems in the education for visually impaired people in the Philippines may contain several factors; parents, children, teachers and the welfare system. First of all, as for parents, there is a world where even ordinary children are abandoned due to the poverty or sold to the prostitution industry, so children with disability are abandoned naturally. As for children with disabilities, since they have no role models, it is difficult for them to have goals and to get interested in learning new things. As for the welfare system, there is no system of benefits for children with disabilities, and it costs a lot to import paper to write Braille. These innumerable problems overlap and create a vicious circle. After thinking about where to solve problems in this vicious circle, I decided to count on future teachers. At the end of the service activity, I observed a Special Education class at Silliman University and was given an opportunity to give a speech to about 25 students. Everyone got so interested as soon as they looked at a visually impaired person from Japan, who had come to the class without family members. It must have been an unbelievable sight for them to see me attending a university and learning a foreign language, English. For future teachers, I explained my impressions of school for the blind and teaching methods I had developed there, and showed that the visually impaired had the same potential as the non-handicapped if they were taught in the right way.

During my SL activities, I tried to go out with my white cane, regardless of necessities. I thought that the best service I could do was to let people see me, and to help them understand the possibilities of people with disabilities correctly. For me, service and learning were not made up of activities, but of relationships. What I can do here in Japan is not only to inform people about the current situation in the Philippines, but also to spread the discovery that people with disabilities can also volunteer. (written in 2010) ··· Part II will be in the next issue.

シリマン大学について

フィリピンのドゥマゲッティにあるキリスト教系の大学。 文系・理系様々な学部がある。 海山に囲まれた自然豊かなキャンパスで、50か国以上から留学生を受入れている。 ICUとは2004年から学生交換を行っている。

About Silliman University

A Christian university in Dumaguetti, Philippines, with various faculties of arts and sciences.
Surrounded by mountains and seas, the campus is rich in nature and welcomes students from more than 50 countries.
SU and ICU have been exchanging students since 2004.

SU's website:





留学中「マニラ盲人協会」で、家族に見放された方々への自信回復プログラムとして、週2回折り紙セッションを実施。(左)教会の世話役・通訳だった弱視のマーベル(Mabel)さんと。(中央:左から二番目)全盲の牧師さん。(右)クリスマスツリーのない貧しい教会に、自分たちの作品で飾り付けをしたら自信になるのではと思い、一か月程かけて作った飾り。

During my study abroad, I had origami sessions twice a week at the Manila Blind Church as a confidence-boosting program for visually impaired people who were neglected by their families. (Left) With Ms. Mabel, who has low vision and was a caretaker/interpreter at church. (Center: second from left) A blind pastor (Right) Christmas decorations for a poor church without a Christmas tree, thinking that decorating it with our work would give them confidence.



西村 幹子教授 Mikiko Nishimura, Ed.D.

教育社会学

・国際教育開発

Professor, Sociology of Education and International Educational Development

海外に行くことが難しい今、国内でサービス活動をする学生が増加

Now it is difficult to go abroad, more students engage in service activities in Japan

秋学期は、一般教育科目(GE)のサービス・ラーニング(SL)のオンライン授業が英語で行われ、24人が受講しました。今学期の一つ目の特徴は、キャンパス内の平和研究所とジェンダー研究センターを活動先に加えたことです。キャンパス内で学生が大学の社会貢献の役割を理解し、当事者意識を醸成すること、教員にも SL の意義やあり方を理解してもらうことにもなり、有意義な機会になりました。もう一つの特徴としては、履修後も、国内でサービス活動を継続する学生が増えたことです。授業後の 18 時間のサービスでは足りず、もっと焦点を絞った問いを追求してみたい、もっと何かやってみたい、という思いを強くする学生が増えたことは本当に喜ばしいことです。冬学期には、海外の提携大学教員たちの協力を得て「コロナ禍におけるサービス・ラーニングの実践と課題」と題するモノグラフシリーズを発行しますので、ご期待下さい。

In Autumn Term, 24 students took the General Education (GE) Service Learning (SL) online classes in English. One of the features of this course was the addition of service activity places on campus; Peace Research Institute and Gender Studies Center. It was a meaningful opportunity for students to understand the role of the university's contribution to society on campus, to develop a sense of ownership, and for faculty members to understand the meaning and nature of SL. Another feature of the course was that more students continued their service activities in Japan after taking the course. It's really gratifying to see that 18 hours of service after class isn't enough, and more students have a strong desire to pursue more focused questions and do more. Now we are working on a monograph series titled "Service-Learning Practices and Challenges in the Corona Disaster" to be published in Winter Term in collaboration with faculty of our overseas partner universities.



YS

マスク生活が続くようになり、これまで以上に意識的に相手の目を見て話すように心がけています。顔の大部分がマスクだと、相手の感情を読み取りにくいですよね。

We've been wearing a mask for a while now, and I'm making a conscious effort to look people in the eye as I speak, more than ever before. It's hard to read someone's emotions when the majority of their face is hidden under a mask.

RJ オフィスと在宅のハイブリッド型勤務が始まりました。ひたすらヨガに 勤しんだ春夏。ついにインストラクター資格まで取得し、現在は週一ヨ ガ・サークル講師になりました。興味ある方、火曜 12 時ジムにカモン!

A hybrid work style of office and home began. I've been doing yoga all the time, and finally became a certified yoga instructor. Now I'm an instructor of a weekly yoga club. If you're interested, come to gym on Tuesdays at 12pm!

SL 体験談、卒業生コラム、コミュニティ紹介など記事募集中

SL Stories, Alumni Columns, Introducing Community etc...WANTED!

本紙は、年 4 回発行予定。卒業生による学生時代の SL 経験と現在のお仕事、地域コミュニティの活動紹介など、SL に関連する記事を執筆してくださる方を募集します!興味のある方は、SLC までお知らせください。

This newsletter will be published four times a year. We are looking for someone to write articles related to SL, such as SL experience and current work by graduates, introduction of the local community activities etc. If you are interested, please contact SLC.

学生支援に関する寄付のお願い

Help us assist Students' Service-Learning

全学生が社会経済的背景に依らずサービスに携わること、リベラルアーツ教育にふさわしい経験的学習の機会を提供することを目的に、2020 年より奨学金制度を設けました。ご支援に興味のある方は、SLCまでお知らせください。

For the purpose of generating more opportunities for students to engage with service and a rich experiential learning of liberal arts education, SLC has established the scholarship to students from 2020. If you would like to support, please contact SLC.



秋学期に SL 授業 (英語開講) を西村先生と共に担当しました。18 時間の実習もオンラインでしたが、逆にその強みを生かし、夏にキャンセルになった栃木や長野での活動が可能に。初回にトライしたハイブリッド授業は大変だったので以降ずっとオンライン授業でした。

In Autumn term, I taught SL class in English together with Prof. Nishimura. 18 hours practicum was done online by students, and it was possible to connect with rural areas of Japan taking advantage of online. The hybrid class (face to face and online) was too hard, thus the rest of the class was held online only.



数ヶ月前に引っ越して、秋から自転車通勤になりました。毎日電車に乗る必要がないのは、時間にも余裕が生まれて、けっこう快適です。自転車は今流行りの掲示板サイトを通して、地域の人から譲ってもらいました。

I moved a few months ago and started to commute by bicycle from autumn. It is quite comfortable because I don't need to ride train everyday and also can save time. I bought a used bicycle from a local person through a second hand site.



コロナ禍でお出かけも運動もすっかり減ってしまいました。そこで自宅から ICU まで 1 時間弱の徒歩通勤を最低でも週 2 日を目標に 11 月から始めました。こうやって公言したら頑張れそうです!

Going outside and exercise have been completely reduced due to the pandemic, so from November I started walking from home to ICU less than an hour away, at least two days a week. I think I could do it if I say it here!

【卒業生の方へ】卒業生向け FB グループ登録・周知のお願い [ICU ALUMNI] Please register for Alumni FB group and tell your friends!

過去 10 年間の SL 生は 500 名以上。皆さんと繋がることで、卒業生向けイベントのご招待や授業でのゲスト講演、お勤め先での SL 学生の受入等、様々な連携ができることを願っています。

More than 500 SL students in the last 10 years. We hope that by connecting with everyone, we could have various collaborations such as inviting events for graduates, guest lectures in classes, accepting SL students at your work place.



ICU SL Alumni (SL プログラム 過去参加者限定)

SNS フォローしてください Follow us on SNSs!

学内外への情報提供ツールとして、FB/インスタ/twitter を通し、最新情報からイベント情報、SL 活動先紹介、ICU ニュース、SLC スタッフの小ネタまで様々な情報を発信しています。投稿リクエストやネタ提供も受付中!

For both inside and outside of ICU, we post various information on FB/instagram/twitter, such as the latest news, event information, SL activity introductions, ICU news, SLC staff's short stories etc. Posting requests and interesting news would be appreciated too!



See you next time in March!

Cover Photo credit: おけい/Okei Back cover Photo: ICU campus in November



ICU

国際基督教大学

サービス・ラーニング・センター / Service-Learning Center

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス 2 階 3-10-2 Osawa, Mitaka city Tokyo, 181-8585, JAPAN

TEL 0422 – 33 – 3687 **FAX** 0422 – 33 – 3685

EMAIL slc@icu.ac.jp



公式サイト Official Website



nttps://office.icu.ac.jp/